

MMMT: Monday Morning Manabi Time!



MMMT: Monday Morning Manabi Time!

1. オープニング(導入)

2. ボディ(本論)

- 研修転移
- 研修評価
- OJT 等

3. クロージング(結び)

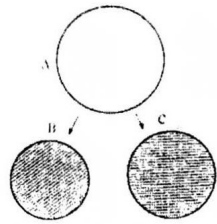
- 評価とは？
- 転移との関係性
- これまでの研修評価
- これからの研修評価

-

形式陶冶と実質陶冶

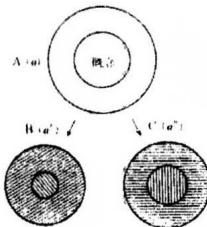
M M M T

形式陶冶
普遍的転移



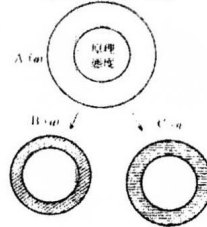
〔図Ⅰ〕

新形式陶冶
概念的転移



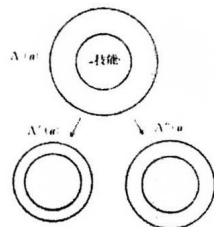
〔図Ⅱ〕

一般的転移
非特殊的転移
原理、態度の転移



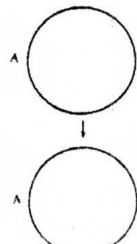
〔図Ⅲ〕

特殊的転移

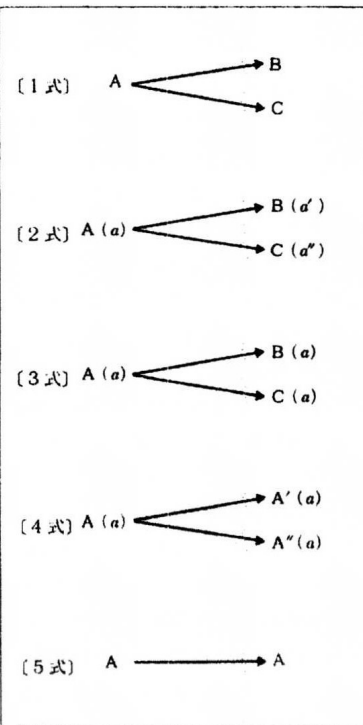


〔図Ⅳ〕

実質陶冶
同一性転移



〔図Ⅴ〕



〔表Ⅰ〕

佐藤(1979)は、5段階に分けて、
転移の間の関連性を図式化しました。

(佐藤三郎(1979)教育方法
吉田・長尾・柴田編 有斐閣双書.)

本学と末学

M M M T

- 徳性を育てていく学問を「本学」と呼び、
知能・技能を育てていく学問を「末学」と呼ぶ。
 - 本になる学問は「人間学」と呼び、
知識や技術を身につける学問を「時務学」という。
 - 昔は、学問といったら人間学のことをいった。
そして知識、技術を学ぶ時務学のほうは「芸」といった。
 - 学と芸の両者を修めることによって、人の指導者にもなれる。
-
- 修身科がないことを憂えた明治天皇が、明治23年に「教育勅語」を出された。
 - 「大学」の精神が、教育勅語の中に表れている。
-
- 焼野原と化した国土復興。経済復興をする上において一番手近なものは、
それに必要な知識、技術を身につけるということ。
だから、本学である修身科を廃して、末学のほうに重点が置かれた。

『己を修め人を治める道～「大学」を味読する』伊與田覺(2008)



徳



君子
(できた人)

聖賢

愚人

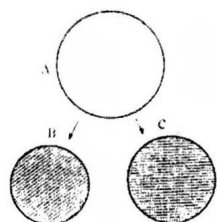
小人
(できる人)



才

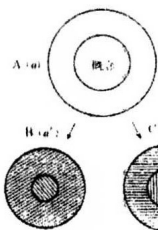
形式陶冶と実質陶冶

形式陶冶
普遍的転移



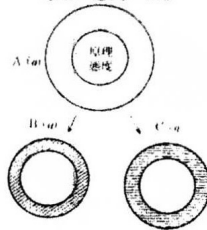
〔図Ⅰ〕

新形式陶冶
概念的転移



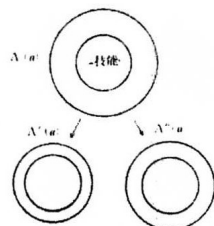
〔図Ⅱ〕

一般的転移
非特殊的転移
原理、態度の転移



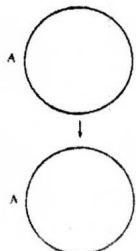
〔図Ⅲ〕

特殊的転移



〔図Ⅳ〕

実質陶冶
同一性転移



〔図Ⅴ〕

〔1式〕 $A \rightarrow B$
 $A \rightarrow C$

〔2式〕 $A(a) \rightarrow B(a')$
 $A(a) \rightarrow C(a'')$

〔3式〕 $A(a) \rightarrow B(a)$
 $A(a) \rightarrow C(a)$

〔4式〕 $A(a) \rightarrow A'(a)$
 $A(a) \rightarrow A''(a)$

〔5式〕 $A \rightarrow A$

〔表Ⅰ〕

形式陶冶的学び(本学・徳・探索?)と
実質陶冶的学び(末学・才・深化?)の
両方が必要では?

しかし、(転移が見えにくい)
形式陶冶的学び(例:階層別研修)を、
どう評価するか?

佐藤(1979)は、5段階に分けて、
転移の間の関連性を図式化しました。

(佐藤三郎(1979)教育方法
吉田・長尾・柴田編 有斐閣双書.)

形式陶冶と実質陶冶

M M M T

- 本学(人間学)と末学(時務学)
- 徳と才
- 知の探索と知の深化

- 本学(人間学)と末学(時務学)
- 徳と才
- 知の探索と知の深化
- 非認知能力と認知能力
- 「いつか役立つ学び」と「すぐ役立つ学び」
-

ソーンダイク(1901)後の形式陶冶説

遠くはプラトン、近くはロックにルーツを持つ**形式陶冶説を批判したソーンダイク(1901)の実験後、多くの転移研究が行われるようになりました**(例: Norsworthy, 1902; Ruediger, 1908; Judd, 1902, 1908)。その一つが、C.H.Juddジャッド(1908)です。彼は、ダーツを投げる実験を通じて、一つの場面での経験が、一般法則として、他の場面に適用されるという「一般化説 theory of transfer by generalization」を提示しました。ソーンダイクの言う同一要素ではなく、他にも適用できる一般原則を学ぶことによって、転移が起きると主張したのです。

しかし、**Dettermanディッターマン(1993)**は、「ジャッドは、転移を立証したと言われるが、実験内容を見ると、実験群に対し、戦略を使うよう指示しており、これは転移とは言えない」と批判しています。彼は、1901年から1989年までの転移研究をレビューした結果を総括し、ソーンダイクの主張である**「転移は稀」をひっくり返すものはないと述べ「形式陶冶という教育哲学を支持するエビデンスは存在しない」と断じています**。ディッターマンは「人に何かを知ってもらいたいなら、そのことを教えるしかない。彼らに違うことを教えながら、本当に知ってほしいことに、彼らが気づくことを期待してはいけない。」と痛烈な言葉で、形式陶冶説を批判しています。

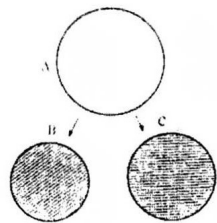
このような批判を受け、ソーンダイク(1901)の実験後、**「形式陶冶は死んだ」とまで言われた形式陶冶説***に、灯りをともしたのが、アメリカの教育学者 Jerome Brunerブルーナー(1915-2016)でした。

*形式陶冶論は(Formale Bildung, formal discipline)は、19世紀から20世紀にかけて否定されるようになり、次第に実質陶冶論(Materiale Bildung)にかわっていきました。(河野昌晴(1982)「学習の転移についての一考察」)

形式陶冶と実質陶冶

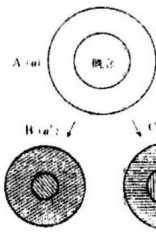
M M M T

形式陶冶
普遍的転移



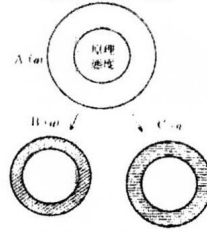
〔図Ⅰ〕

新形式陶冶
概念的転移



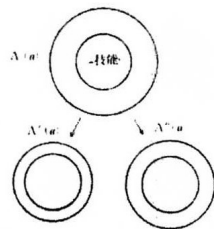
〔図Ⅱ〕

一般的転移
非特殊的転移
原理、態度の転移



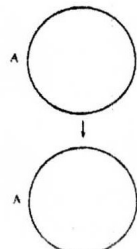
〔図Ⅲ〕

特殊的転移

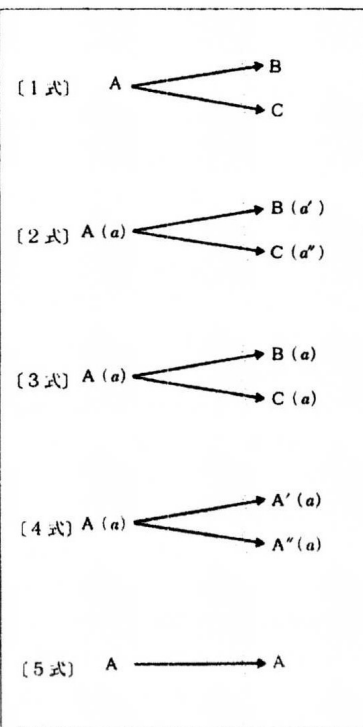


〔図Ⅳ〕

実質陶冶
同一性転移



〔図Ⅴ〕



〔表Ⅰ〕

佐藤(1979)は、5段階に分けて、
転移の間の関連性を図式化しました。

(佐藤三郎(1979)教育方法
吉田・長尾・柴田編 有斐閣双書.)

形式陶冶もあるのでは？

M M M T

○→●

形式陶冶もあるのでは？

M M M T

○→●

- ・「論語」「大学」の素読（古典を現代に活用）

即効性はないが、後から効いてくる・・・

M M M T

「素読には即効性はないが、確実に人格形成の根本を育んでくれる。
語学、科学などは成果が分かりやすい実学。一方、信頼、察する力、
やり抜く強い意志、思いやりなどは見えにくく評価できないもの。
しかし逆境の時、困難な状況の時こそ、この人間力が大事になる」

安岡定子氏（埼玉新聞 2022年6月20日）

形式陶冶もあるのでは？

M M M T

○→●

- ・「論語」「大学」の素読（古典を現代に活用）

形式陶冶もあるのでは？

M M M T

○→●

- 「論語」「大学」の素読（古典を現代に活用）
- 経験を別の経験に活かす（内省による抽象化と教訓化）
- 営業研修で学んだヒューマンスキル（プロセス/タイプ）を、別の場面（研修運営）で使う（文脈Aでの学びを、文脈Bで活用）

▪

MMMT: Monday Morning Manabi Time!

1. オープニング(導入)

2. ボディ(本論)

- 研修転移
- 研修評価
- OJT 等

3. クロージング(結び)

MMMT: Monday Morning Manabi Time!

